

茨城県の経済動向（平成18年1～3月期）

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまで県等で公表された当該分野の各主要経済指標の数値変動をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析範囲の中で、概観的にまとめたものです。

概況

本県の最近の経済動向をみると、生産活動は概ね横這いで推移し、消費は持ち直しの動きを維持している。民間設備投資は、増加しているが、公共投資は減少しており、住宅投資は増加で推移している。

雇用・労働は総じて回復基調が続いている。一方、景気ウォッチャー調査による景況感は、全体として回復基調を維持している。特に、県南地域を中心に、つくばエクスプレス開業後の波及効果が続いており、景気の回復感による消費のマインドが高くなっている。また、景気動向指数は、景気が上昇・下降の境目である50%を3か月連続で上回っており、県民経済計算四半期速報による実質経済成長率は、4四半期連続でプラス成長となっている。

このようなことから、本県経済は、全体として、緩やかな回復基調を続けている。

景況等

・景気ウォッチャー調査（3月実施）の現状判断DIは、前回調査（12月）に比べ1.0ポイント減の53.1となった。分野別に見ると、家計動向関連・企業動向関連・雇用関連のいずれのDIも横這いを示す50を上回った。また、家計動向関連は、前回初めて横ばいを示す50を上回ったが、今回も引き続き50を上回った。全体として景況感は、回復基調を維持している。

・景気動向指数（2月）の一致指数DIは85.7と3か月連続で50%を上回った。また、先行指数は3か月連続50%を上回った後50となった。

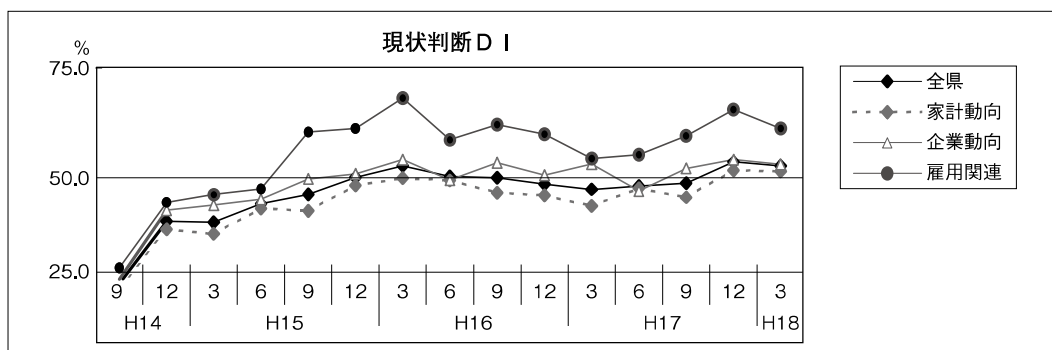
〈※国の景気動向指数の一致指数は6か月連続50%を上回った後50%となった。〉

・県民経済計算四半期速報（平成17年10～12月期）の実質経済成長率は、対前期比プラス0.7%となり、4四半期連続（平成16年10～12月期以来）でプラス成長となっている。

〈※国の実質経済成長率（平成17年10～12月期）は、+1.3%と4四半期連続でプラス成長となった。〉

景気の現状判断DI

分野	調査月	H16.9	H16.12	H17.3	H17.6	H17.9	H17.12	H18.3
合計		49.9	48.3	46.9	47.7	48.5	54.1	53.1
家計動向関連		46.0	45.3	42.5	47.1	44.8	51.9	51.6
企業動向関連		53.9	50.6	53.6	46.5	52.4	54.8	53.5
雇用関連		64.0	61.5	55.0	56.0	61.0	68.0	63.0



■調査から

生産活動 …概ね横這いで推移

- ・ 鉱工業生産指数（3月）（平成12年=100）は104.1、前年同月比0.8%増と2か月連続で前年水準を上回った。原指数で見ると、非鉄金属工業は11か月、輸送機械は3か月、電子部品・デバイス、情報通信機械は2か月、それぞれ連続で前年水準を上回った。一方、化学工業は6か月ぶりに前年水準を下回り、金属製品工業、食料品・たばこ工業は振るわない。

全体として、業種によりバラツキはあるものの、概ね横這いで推移している。

〈※全国の鉱工業生産指数（3月）は103.7、前年同月比3.1%増と8か月連続の増加となった。〉

- ・ 大口電力使用量の3月は、前年同月比2.1%減と2か月連続で前年水準を下回ったものの、全体の8割を占める製造業を見ると、4か月連続で前年水準を上回っている。

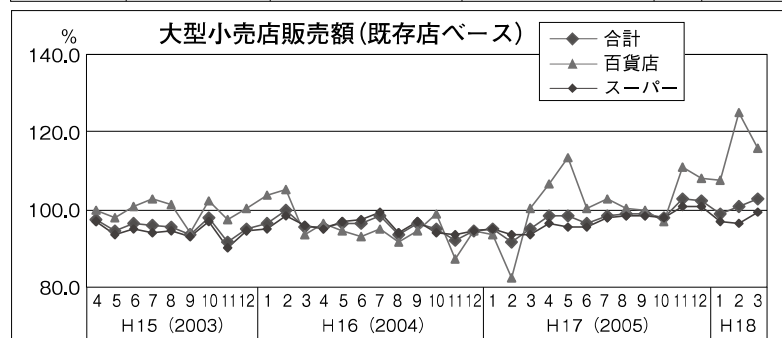
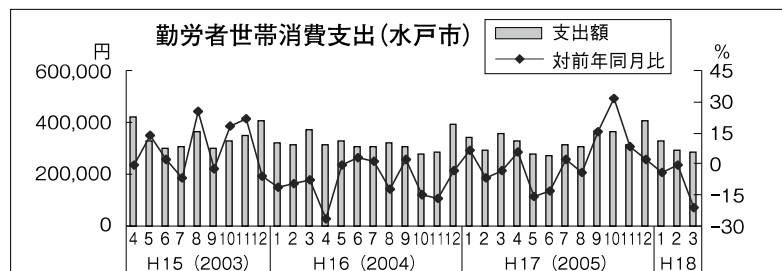
消費 …持ち直しの動きを維持

- ・ 3月の自動車新規登録台数は20,223台で、前年同月比0.63%減と3か月ぶりに前年水準を下回った。貨物車・特殊車を除いた、乗用車で見ると、3か月連続で前年水準を上回っている。普通乗用車（2000cc超）は、16か月連続で前年水準を下回っているが、小型乗用車（2000cc以下）及び軽乗用車は3か月連続で前年水準を上回っている。年度累計（4～3月）で見ても、普通乗用車は前年比9.2%減、小型乗用車は前年比4.7%増、軽乗用車は前年比2.3%増となっている。
- ・ 大型小売店販売額（3月）は、前年同月比2.0%増と3か月ぶりに前年水準を上回った。内訳を見ると、百貨店販売額が2か月連続前年水準を上回り、スーパー販売額は3か月ぶりに前年水準を上回った。既存店ベースで見ても、大型小売店販売額（3月）は2か月連続で前年水準を上回っている。内訳を見ると、百貨店販売額が2か月連続で前年水準を上回り、スーパー販売額は5か月連続で前年水準を下回っている。全体の販売額は持ち直しの動きを維持している。
- ・ 勤労者世帯消費支出（3月：水戸市）は、前年同月比20.7%減と3か月連続で前年水準を下回った。3月の減少幅が大きい理由は、授業料・仕送り金が減少したためであり、これを除外してみると対前年同月比0.9%減となり、前月と概ね同水準となっている。〈※全国の勤労者消費支出（3月）は、前年同月比3.8%減と3か月連続前年水準を下回った。〉

○勤労者世帯消費支出（水戸市）

年	月	消費支出 (原数値：円)	対前年 同月比
H16 (2004)	7	310,252	1.63
	8	322,763	-12.09
	9	305,343	2.46
	10	278,794	-15.17
	11	288,009	-16.89
	12	395,555	-3.02
H17 (2005)	1	343,579	7.01
	2	291,914	-7.05
	3	357,387	-2.95
	4	330,118	5.89
	5	276,945	-15.41
	6	268,764	-12.88
	7	316,864	2.13
	8	308,767	-4.34
	9	354,127	15.98
	10	366,108	31.32
	11	313,157	8.73
	12	404,897	2.36
H18 (2006)	1	328,731	-4.32
	2	289,487	-0.83
	3	283,367	-20.71

資料出所：県統計課 国のPは速報値



民間設備投資 …増加で推移

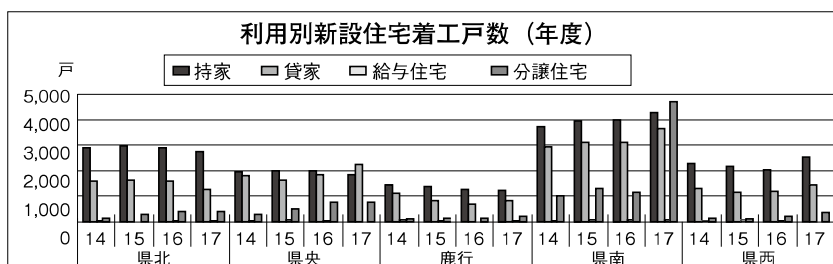
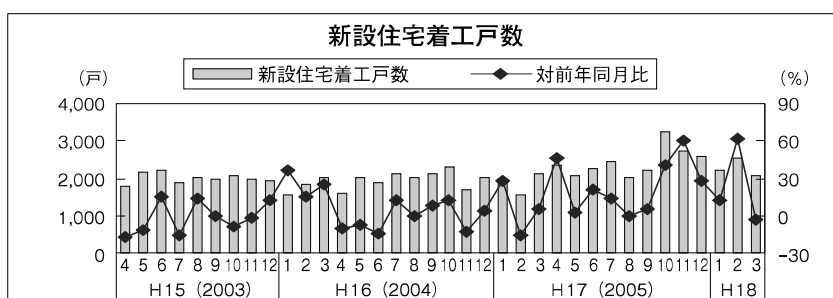
- ・ 法人企業景気予測調査（水戸財務事務所）では、17年度下期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比46.5%の増加見込みとなっている。18年度通期でも、全産業で前年同期比18.6%の増加見通しとなっている。

建設投資 …住宅投資は増加で推移、公共投資は減少

- ・新設住宅着工戸数（3月）は、2,056戸、前年同月比2.7%減と7か月ぶりに減少となったが、年度累計では22.4%前年を上回っている。中でも分譲住宅が堅調であり、地域別には、県北を除く全ての地域で全年を上回っているが、特に県南の増加が著しい。
 〈※全国の新設住宅着工戸数（3月）は、対前年比3.3%増と2か月連続で増加し、年度累計でも4.7%増加している。〉
- ・公共工事請負金額から公共投資の動向をみると、3月は191億24百万円、前年同月比36.4%減と5か月連続前年水準を下回った。年度累計で見ても、対前年比がH15 △24.0%、H16 △16.1%、H17 △10.1%と3年連続で減少している。

○新設住宅着工戸数

年	月	総 数	
		戸 数	対 前 年 同 月 比
H16 (2004)	7	2,126	12.4
	8	2,025	-1.0
	9	2,110	7.5
	10	2,310	12.6
	11	1,708	-12.9
H17 (2005)	12	2,025	4.0
	1	1,991	28.5
	2	1,558	-15.4
	3	2,113	4.8
	4	2,331	46.4
	5	2,081	2.6
	6	2,268	21.0
	7	2,424	14.0
	8	2,019	-0.3
	9	2,221	5.3
	10	3,240	40.3
	11	2,731	59.9
H18 (2006)	12	2,585	27.7
	1	2,231	12.1
	2	2,526	62.1
	3	2,056	-2.7



雇用・労働 …総じて改善基調を維持

- ・新規求人倍率の3月（単月）は、前月比0.15%減少となった。平成17年通期では1.22であり、平成17年1-3月期（前年同期）は1.23、平成18年1-3月期は1.24であり、前年水準を上回っている。
- ・雇用保険受給者実人員（3月）は、10,131人、前年同月比6.4%減と41か月連続で前年水準を下回っている。
- ・産業別現金給与額（規模30人以上：2月）は、317,792円と、2か月ぶりに前年水準を上回った。また、決まって支給する給与をみると、8か月連続で前年水準を上回っている。

※ 参考：最近の国内経済の動向
 （内閣府「月例経済報告」平成18年5月16日）

景気は、回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出、生産は緩やかに増加している。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。